

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第6971670号
(P6971670)

(45) 発行日 令和3年11月24日(2021.11.24)

(24) 登録日 令和3年11月5日(2021.11.5)

(51) Int.Cl. F 1
G 0 2 B 7/02 (2021.01) G 0 2 B 7/02 E

請求項の数 17 (全 14 頁)

(21) 出願番号	特願2017-136698 (P2017-136698)	(73) 特許権者	000001007
(22) 出願日	平成29年7月13日 (2017.7.13)		キヤノン株式会社
(65) 公開番号	特開2019-20494 (P2019-20494A)		東京都大田区下丸子3丁目30番2号
(43) 公開日	平成31年2月7日 (2019.2.7)	(74) 代理人	100110412
審査請求日	令和2年7月7日 (2020.7.7)		弁理士 藤元 亮輔
		(74) 代理人	100104628
			弁理士 水本 敦也
		(74) 代理人	100121614
			弁理士 平山 倫也
		(72) 発明者	奥田 敏宏
			東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キ
			ヤノン株式会社内
		審査官	藏田 敦之

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 レンズ鏡筒および撮像装置

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

光学系と、

前記光学系の少なくとも一部を保持する保持鏡筒と、

前記保持鏡筒に取り付けられた電気部品と、

前記電気部品を制御する制御基板と、

前記電気部品と前記制御基板とを接続するフレキシブルプリント基板と、

前記保持鏡筒に取り付けられ、前記フレキシブルプリント基板を保持する保持部材と、

前記保持部材を前記保持鏡筒に取り付ける固定部材と、を備えたレンズ鏡筒であって、

前記フレキシブルプリント基板は、第1の屈曲部を有し、

前記固定部材には、前記第1の屈曲部により生じる前記フレキシブルプリント基板からの反力を受けるための受け面が設けられ、

前記フレキシブルプリント基板は、前記受け面と当接することにより位置決めされていることを特徴とするレンズ鏡筒。

【請求項 2】

前記フレキシブルプリント基板の前記第1の屈曲部は、前記フレキシブルプリント基板の前記電気部品との接続部から前記保持部材までの間の引き回し範囲に設けられていることを特徴とする請求項1に記載のレンズ鏡筒。

【請求項 3】

前記保持部材は、前記フレキシブルプリント基板を光軸方向に沿って保持することを特

10

20

徴とする請求項 1 または 2 に記載のレンズ鏡筒。

【請求項 4】

前記フレキシブルプリント基板は、前記固定部材の前記受け面と当接することにより、光軸と直交する方向における位置決めがなされていることを特徴とする請求項 1 乃至 3 のいずれか 1 項に記載のレンズ鏡筒。

【請求項 5】

前記固定部材は、光軸と直交する方向から前記保持部材を前記保持鏡筒に取り付けていることを特徴とする請求項 1 乃至 4 のいずれか 1 項に記載のレンズ鏡筒。

【請求項 6】

前記保持鏡筒は、光軸方向に沿って移動することが可能であることを特徴とする請求項 1 乃至 5 のいずれか 1 項に記載のレンズ鏡筒。 10

【請求項 7】

前記フレキシブルプリント基板は、前記引き回し範囲において分岐部を有し、
前記分岐部の少なくとも一部により前記第 1 の屈曲部が構成され、
前記固定部材の前記受け面は、前記分岐部による反力を受けることを特徴とする請求項 2 に記載のレンズ鏡筒。

【請求項 8】

前記分岐部は、光軸に平行であって前記固定部材の中心を通る線に関して線対称であることを特徴とする請求項 7 に記載のレンズ鏡筒。

【請求項 9】

前記固定部材は、軸部を有し、
前記分岐部は、前記固定部材を光軸と直交する方向から投影した形状よりも大きい開口部を有することを特徴とする請求項 7 または 8 に記載のレンズ鏡筒。 20

【請求項 10】

前記開口部は、前記固定部材の前記受け面に対する投影形状よりも大きいことを特徴とする請求項 9 に記載のレンズ鏡筒。

【請求項 11】

前記分岐部は、前記固定部材の前記受け面に対する投影形状よりも小さく、かつ前記軸部よりも大きい端部と、を有し、

前記フレキシブルプリント基板は、前記軸部と前記端部との当接により位置決めがなされていることを特徴とする請求項 10 に記載のレンズ鏡筒。 30

【請求項 12】

前記フレキシブルプリント基板は、前記受け面と当接する補強部を更に有することを特徴とする請求項 1 乃至 11 のいずれか 1 項に記載のレンズ鏡筒。

【請求項 13】

前記補強部は、前記保持部材と当接していることを特徴とする請求項 12 に記載のレンズ鏡筒。

【請求項 14】

前記固定部材の前記軸部と当接する補強部を更に有することを特徴とする請求項 9 乃至 11 のいずれか 1 項に記載のレンズ鏡筒。 40

【請求項 15】

前記受け面と前記保持部材のガイド面は、平行かつ重なっておらず、
前記ガイド面に垂直な方向における前記受け面と前記ガイド面との距離は、前記フレキシブルプリント基板の厚み以下であることを特徴とする請求項 1 乃至 14 のいずれか 1 項に記載のレンズ鏡筒。

【請求項 16】

前記フレキシブルプリント基板は、前記保持鏡筒と前記制御基板との相対的な移動に伴い位置が変化する第 2 の屈曲部を有し、

前記保持部材は、前記第 2 の屈曲部の前記相対的な移動をガイドするガイド面を有することを特徴とする請求項 1 乃至 15 のいずれか 1 項に記載のレンズ鏡筒。 50

【請求項 17】

請求項 1 乃至 16 のいずれか 1 項に記載のレンズ鏡筒と、
前記レンズ鏡筒を介して形成された光学像を光電変換する撮像素子と、を有することを特徴とする撮像装置。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、フレキシブルプリント基板を用いて電気接続を行うレンズ鏡筒に関する。

【背景技術】

【0002】

従来、電気部品と電気部品を制御する制御基板とを電氣的に接続するフレキシブルプリント基板を備えたレンズ鏡筒が知られている。フレキシブルプリント基板を用いることにより、電気部品と制御基板との接続の自由度を上げることができ、平面上で引き回すだけでなく、高さの違う平面上や曲面上で引き回すことができる。しかしながら、高さの違う平面上や曲面上で引き回す場合、すなわち平面以外で引き回す場合、フレキシブルプリント基板の反力により、引き回した箇所が浮くことにより、電気部品と制御基板との間の引き回しが不安定になることがある。

【0003】

このような現象に対して、特許文献 1 には、フレキシブルプリント基板のふくらみを抑制する抑制部材と、保持部材に向かって押し付ける付勢部とを有するレンズユニットが開示されている。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0004】

【特許文献 1】特開 2013 - 61386 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

特許文献 1 によれば、フレキシブルプリント基板が反力で浮いた場合でも、抑制部材と付勢部とによりフレキシブルプリント基板の浮きを抑え、引き回しを安定させることが可能である。しかしながら、特許文献 1 のレンズユニットでは、固定部材を設ける必要があるとともに、固定部材が周方向に拡大するためにスペースを確保する必要がある。

【0006】

そこで本発明は、省スペースで安定的にフレキシブルプリント基板の引き回しが可能なレンズ鏡筒および撮像装置を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0007】

本発明の一側面としてのレンズ鏡筒は、光学系と、前記光学系の少なくとも一部を保持する保持鏡筒と、前記保持鏡筒に取り付けられた電気部品と、前記電気部品を制御する制御基板と、前記電気部品と前記制御基板とを接続するフレキシブルプリント基板と、前記保持鏡筒に取り付けられ、前記フレキシブルプリント基板を保持する保持部材と、前記保持部材を前記保持鏡筒に取り付ける固定部材とを備えたレンズ鏡筒であって、前記フレキシブルプリント基板は、第 1 の屈曲部を有し、前記固定部材には、前記第 1 の屈曲部により生じる前記フレキシブルプリント基板からの反力を受けるための受け面が設けられ、前記フレキシブルプリント基板は、前記受け面と当接することにより位置決めされている。

【0008】

本発明の他の側面としての撮像装置は、前記レンズ鏡筒と、前記レンズ鏡筒を介して形

10

20

30

40

50

成された光学像を光電変換する撮像素子とを有する。

【 0 0 0 9 】

本発明の他の目的及び特徴は、以下の実施形態において説明される。

【発明の効果】

【 0 0 1 0 】

本発明によれば、省スペースで安定的にフレキシブルプリント基板の引き回しが可能なレンズ鏡筒および撮像装置を提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【 0 0 1 1 】

【図 1】第 1 の実施形態における撮像装置の断面図である。

10

【図 2】第 1 の実施形態におけるレンズ鏡筒の部分斜視図である。

【図 3】第 1 の実施形態におけるレンズ鏡筒の要部拡大図である。

【図 4】第 1 の実施形態におけるレンズ鏡筒のフレキシブルプリント基板の展開図である。

【図 5】第 2 の実施形態における撮像装置の断面図である。

【図 6】第 2 の実施形態におけるレンズ鏡筒の要部拡大図である。

【図 7】第 2 の実施形態におけるレンズ鏡筒の部分斜視図である。

【発明を実施するための形態】

【 0 0 1 2 】

以下、本発明の実施形態について、図面を参照しながら詳細に説明する。

20

【 0 0 1 3 】

[第 1 の実施形態]

まず、図 1 を参照して、本発明の第 1 の実施形態における撮像装置について説明する。図 1 は、撮像装置（光学機器）100の断面図である。撮像装置100は、レンズ鏡筒（交換レンズ）2とレンズ鏡筒2を着脱可能に装着されるカメラ本体（一眼レフデジタルカメラ本体）1とを備えて構成される。図 1 において、レンズ光軸（以下、単に光軸という）OAに沿った光軸方向をZ方向とし、光軸OAに対して直交する方向であって撮像面に平行な2方向のうち横方向をX方向、縦方向をY方向とする。なお本実施形態では、後述するシフト素子およびピント補正素子を有する光学機器が交換レンズである場合について説明するが、レンズ一体型の撮像装置であってもよい。

30

【 0 0 1 4 】

まず、カメラ本体1の構成について説明する。メインミラー3は、図1に示されるように、レンズ鏡筒2からの光束の光路上に配置された状態で、光束の一部を反射してファイナ光学系7、8に導き、残りの光束を透過させる。メインミラー3の背後（撮像面側）に配置されたサブミラー4は、メインミラー3を透過した光束を反射して焦点検出ユニット5に導く。メインミラー3およびサブミラー4は、不図示の駆動機構により光路上から退避することができる。

【 0 0 1 5 】

焦点検出ユニット5は、位相差検出方式によりレンズ鏡筒2の焦点状態の検出（焦点検出）を行う。撮像素子6は、CCDセンサまたはCMOSセンサを備えて構成される。撮像素子6の受光面（撮像面）上にはレンズ鏡筒2からの光束による物体像（光学像）が形成される。撮像素子6は、レンズ鏡筒2を介して形成された物体像を光電変換して撮像信号を出力する。ディスプレイパネル9は、撮像信号から不図示の信号処理部により生成された画像や様々な撮像に関する情報を表示する。

40

【 0 0 1 6 】

なお本実施形態において、カメラ本体1は、メインミラー3、サブミラー4、および、焦点検出ユニット5を有する一眼レフカメラであるが、メインミラー3、サブミラー4、および、焦点検出ユニット5を持たない、いわゆるミラーレスカメラであってもよい。また、焦点検出ユニット5を設ける代わりに、撮像素子6からの撮像信号を用いて撮像面位相差検出方式での焦点検出を行ってもよい。また、撮像素子6から得られる撮像信号を用

50

いてコントラスト検出方式による焦点検出を行ってもよい。

【0017】

続いて、レンズ鏡筒2の構成について説明する。レンズ鏡筒2は、撮像光学系（光学系）を有する。撮像光学系は、物体側から撮像面側に順に、第1レンズユニット101、第2レンズユニット102、絞りユニット106、第3レンズユニット103、および、第4レンズユニット104を有する。レンズ鏡筒2において、後述するように、第1カム筒21との光軸OA回りでの相対回転により、直進筒22および第2カム筒23が連動し、第1～第4レンズユニット101～104が光軸方向に移動する。

【0018】

第1レンズユニット101は第1レンズ保持枠111により保持され、第2レンズユニット102は第2レンズ保持枠112により保持されている。第3レンズユニット103は第3レンズ保持枠113により保持され、第4レンズユニット104は第4レンズ保持枠114により保持されている。電気部品としての絞りユニット106は、カメラ本体1に入射する光量を調節する。絞りユニット106と制御基板109とは、フレキシブルプリント基板105により電氣的に接続される。ガイド部材（保持部材）107は、光軸方向に沿ってフレキシブルプリント基板105をガイドし、固定部材108により固定される。絞りユニット106に設けられた駆動部106aに制御基板109からの電気信号が入力されることにより、絞りユニット106の開口径を変更し、カメラ本体1に入射する光量を変更させる。

【0019】

第2レンズ保持枠112および第3レンズ保持枠113は、保持鏡筒24に不図示の取り付け部材を介して固定される。保持鏡筒24は、第1レンズ保持枠111に対して不図示の締結部材によって固定される。絞りユニット106は、保持鏡筒24に対して不図示の締結部材によって固定される。第4レンズ保持枠114は、直進筒22に対して不図示の締結部材によって固定される。

【0020】

第2カム筒23に設けられた不図示のバヨネット爪部が直進筒22のバヨネット溝部22aに係合することにより、第2カム筒23は直進筒22に対して定位置回転可能に保持される。案内筒20に取り付けられた不図示のスラスト規制部材が第1カム筒21に設けられた不図示の周溝部に係合することにより、第1カム筒21は案内筒20に対して定位置回転可能に保持される。直進筒22に取り付けられた第1カムフォロワ41は、案内筒20に設けられた直進溝20aと第1カム筒21に設けられた第1カム溝21bに対して係合している。第2カム筒23に取り付けられた第2カムフォロワ42は、案内筒20のカム溝20bに係合している。

【0021】

続いて、案内筒20、第1カム筒21、直進筒22、および、第2カム筒23の連動について説明する。第1カム筒21が回転すると、第1直進溝20aと第1カム溝21bの交差する位置が変化することで、直進筒22は第1カム溝21bの軌跡に従い光軸方向に直進移動する。直進筒22が直進移動すると、直進筒22に対して定位置回転可能に保持された第2カム筒23も同量直進移動する。この際、第2カム筒23に取り付けられた第2カムフォロワ42は案内筒20のカム溝20bに係合しているため、第2カム筒23は直進筒22と同量直進移動しながら、カム溝20bの軌跡に従った分だけ回転する。すなわち、第1カム筒21の回転に連動して、第2カム筒23を回転させることができる。2部品の回転量は第1カム溝21bとカム溝20bの軌跡の取り方によって、回転量に差を持たせたり、回転速度に差を持たせたりすることが可能となる。

【0022】

次に、各レンズ保持枠の動きについて説明する。第1レンズ保持枠111に設けられた第3カムフォロワ43は、直進筒22に設けられた直進溝22bと第2カム筒23に設けられたカム溝23aに対して係合している。前述のように、第4レンズ保持枠114は、直進筒22に取り付けられている。また前述のように、第1カム筒21が回転すると直進筒

10

20

30

40

50

２２が直進移動するため、第４レンズ保持枠１１４は、直進筒２２と同量だけ光軸方向に直進移動する。また、第１カム筒２１が回転すると第２カム筒２３が回転するため、第１レンズ保持枠１１１は、直進筒２２が光軸方向に繰り出した量に、直進溝２２ｂとカム溝２３の交差する位置が変化する量を加えた分だけ光軸方向に直進移動する。第２レンズ保持枠１１２および第３レンズ保持枠１１３は、保持鏡筒２４を介して第１レンズ保持枠１１１に固定されているため、第１～第３レンズ保持枠１１１～１１３は同量だけ光軸方向に移動する。

【００２３】

また、先端にフィルタ等のアクセサリが取り付け可能なネジ部２５ａを有するフィルタ枠２５には、第４カムフォロワ４４が取り付けられており、案内筒２０に設けられた第２直進溝２０ｃと第１カム筒２１に設けられた第２カム溝２１ｃに対して係合している。第１カム筒２１が回転すると、第２直進溝２０ｃと第２カム溝２１ｃの交差する位置が変化する。直進筒２２は第２カム溝２１ｃの軌跡に従い光軸方向に直進移動する。化粧環２６はフィルタ枠２５のネジ部２５ａに対してねじ込み固定される外観部品である。

【００２４】

固定筒２８は、案内筒２０と不図示の締結部材で固定され、フォーカス操作環２７を位置回転可能に保持する。フォーカス操作環２７は、マニュアルで焦点調節（マニュアルフォーカス）を行うユーザによって回転操作され、第１カム筒２１に回転操作力を伝達する。フォーカス操作環２７を介して第１カム筒２１が回転されると、前述した運動により、第１～第３レンズユニット１０１～１０３および絞りユニット１０６は、光軸方向に一体的に移動する。一方、第４レンズユニット１０４は、第１～第３レンズユニット１０１～１０３とは独立して光軸方向に移動する。またフィルタ枠２５は、独立して光軸方向に移動する。フォーカス操作環２７、案内筒２０、第１カム筒２１、直進筒２２、および、第２カム筒２３等により、マニュアルフォーカス機構（フォーカス調節手段）が構成される。なお、第１～第４レンズユニット１０１～１０４をモータ等の電動アクチュエータによって駆動するようにしてもよい。また、フォーカス操作環２７の回転量および回転方向を電気的に検出し、その電気信号に基づいて第１カム筒２１を駆動するアクチュエータを制御するようにしてもよい。

【００２５】

次に、レンズ鏡筒２におけるティルト／シフト機構について説明する。全体回転部３０は、カメラ１と接続されるマウント２９に固定された固定部材３１に光軸ＯＡ回りで回転可能に連結されており、レンズ鏡筒２のうち全体回転部３０よりも物体側の部分（回転可能部分）を光軸ＯＡ回りで回転させる。回転可能部分の回転量（角度）は、角度センサ３２によって検出される。

【００２６】

シフト部３３は、全体回転部３０に対して光軸ＯＡに対して直交する方向（シフト方向）にシフト可能に連結されており、レンズ鏡筒２のうちシフト部３３よりも物体側の部分（シフト可能部分）をシフト方向に平行移動させる。シフト部３３は、不図示のシフト操作ノブの回転操作をシフト方向の力に変換してシフト可能部分をシフトさせる機構を備えている。シフト可能部分のシフト量は、シフトセンサ３４により、シフト方向（上下方向）とともに検出される。

【００２７】

ＴＳ回転部３６は、シフト部３３とティルト部３５を相対的に回転させる（ＴＳ回転）。あおり手段としてのティルト部３５は、レンズ鏡筒２のうちティルト部３５よりも物体側の部分（ティルト可能部分）を、光軸ＯＡに対して直交する軸回りでシフト部３３に対して（すなわちカメラ本体１に対して）傾斜させる。具体的には、ＴＳ回転部３６に設けられた凹面とティルト部３５に設けられた凸面とが、同一の中心軸（ティルト中心）と同一の半径を有す半円筒面として形成されて互いに当接している。ティルト部３５に設けられた凸面がＴＳ回転部３６に設けられた凹面に対して摺動することにより、ティルト可能部分がティルト方向に回転（ティルト）する。ティルト部３５は、ティルト操作ノブ３７

10

20

30

40

50

の回転操作をティルト方向の力に変換することで、ティルト可能部分をティルトさせる機構を有する。ティルト可能部分のティルト量は、ティルトセンサ 38 により、ティルト方向（上下方向）とともに検出される。

【0028】

全体回転部 30、シフト部 33、ティルト部 35、および、TS 回転部 36 により、あらゆる方向へのシフトとティルトを組み合わせで行わせることができる。固定筒 28 は、ティルト部 35 に固定されている。このように構成されたレンズ鏡筒 2 が装着されたカメラ本体 1 において、不図示のリリースボタンが操作されると、オートフォーカス、測光（露出決定）の後、撮像素子 6 の露光および撮影画像の生成と記録が行われる。

【0029】

次に、図 2 乃至図 4 を参照して、フレキシブルプリント基板 105 の引き回しについて説明する。図 2 は、レンズ鏡筒 2 の部分斜視図である。図 3 は、図 1 に示されるレンズ鏡筒 2 の要部拡大図である。図 4 は、本実施形態におけるフレキシブルプリント基板 105 の展開図である。

【0030】

電気部品としての絞りユニット 106 は、開口径を変化させるために駆動させる駆動部 106a と開口径のリセットを行う不図示の検知部とを有する。フレキシブルプリント基板 105 の一端に設けられた接続部 105a、105b は、駆動部 106a および検知部にそれぞれ接続されている。なお、フレキシブルプリント基板 105 の他端は、制御基板 109 に接続されている。

【0031】

絞りユニット 106 は、保持鏡筒 24 に不図示の締結部材により固定されている。ガイド部材（保持部材）107 は、保持鏡筒 24 の当接面 24a 対し、当接面 107a で固定部材 108 により固定される。ガイド部材 107 は、保持鏡筒 24 の当接面 24a と平行な当接面 107a だけではなく、ガイド部材 107 の倒れを抑制するために当接面 107a と垂直に設けられた倒れ抑制面 107b を有する。またガイド部材 107 は、フレキシブルプリント基板 105 の引き回しをガイドするためのガイド面 107c を有する。前述のように、第 3 レンズ保持枠 113 は、保持鏡筒 24 に対して不図示の固定部材により固定される。第 3 レンズ保持枠 113 には、絞りユニット 106 の駆動部 106a を逃げるための逃げ部 113a が設けられている。

【0032】

本実施形態において、フレキシブルプリント基板 105 には、接続部 105a、105b とガイド部材 107 との間の引き回し範囲 R において、屈曲部（第 1 の屈曲部）105c が設けられている。また、屈曲部 105c を設けることにより生じる反力 F を受けるため、固定部材 108 には受け面 108a が設けられている。フレキシブルプリント基板 105 の当接部 105d と受け面 108a とが当接することにより、光軸方向と直交する径方向（図 3 の上下方向）におけるフレキシブルプリント基板 105 の位置決めがなされる。

【0033】

次に、レンズ鏡筒 2 の組立手順について説明する。レンズ鏡筒 2 の組立時には、フレキシブルプリント基板 105 が接続部 105a、105b で接続された絞りユニット 106 を保持鏡筒 24 に対して固定する。その後、第 3 レンズ保持枠 113 を組み込む。図 2 から分かるように、第 3 レンズ保持枠 113 を光軸方向から組み込もうとすると、絞りユニット 106 の駆動部 106a が干渉する。このため、第 3 レンズ保持枠 113 の組み込み時には、第 3 レンズ保持枠 113 を斜めにした状態で組立を行う。この際、フレキシブルプリント基板 105 の他端は、第 3 レンズ保持枠 113 の逃げ部 113a を通しておく。

【0034】

次に、ガイド部材 107 を保持鏡筒 24 に対して固定部材 108 で径方向（光軸と直交する方向）から取り付け。この際、フレキシブルプリント基板 105 を越えて固定部材 108 が取り付けられるように、フレキシブルプリント基板 105 には、引き回し範囲 R

10

20

30

40

50

において分岐部 105 e が設けられている。分岐部 105 e は、固定部材 108 の保持鏡筒 24 との取り付け面よりも大きく、かつ固定部材 108 を径方向から投影した形状（投影形状）よりも大きい開口部 105 j を有する。

【0035】

またフレキシブルプリント基板 105 は、屈曲部 105 c を形成するように、固定部材 108 の受け面 108 a とフレキシブルプリント基板 105 の当接部 105 d とが当接するように引き回される。最後に、フレキシブルプリント基板 105 の一部とガイド面 107 c とが接着手段により接着され、位置決めがなされる。

【0036】

本実施形態においては、固定部材 108 を用いてフレキシブルプリント基板 105 の反力 F を受けるように構成されているため、フレキシブルプリント基板 105 の浮きを抑制することができる。また、ガイド部材 107 を固定する固定部材 108 に浮き防止の機能を持たせたことにより、省スペースで安定的にフレキシブルプリント基板 105 を引き回すことが可能となる。さらに、固定部材 108 がガイド部材 107 を固定する機能とフレキシブルプリント基板 105 の浮きを抑制する機能を兼ね備えているために、低コストのレンズ鏡筒を実現することができる。

【0037】

また本実施形態においては、フレキシブルプリント基板 105 の接続部 105 a、105 b とガイド部材 107 との間に設けられた引き回し範囲 R において、分岐部 105 e を設けている。分岐部 105 e は、前述のように、固定部材 108 の保持鏡筒 24 との取り付け面よりも大きく、かつ固定部材 108 を径方向から投影した形状（投影形状）よりも大きい開口部 105 j を有する。また、固定部材 108 の受け面 108 a を中心として、分岐した当接面 105 d を両側から当接させることができるため、フレキシブルプリント基板 105 の引き回しを更に安定させることが可能となる。これは、固定部材 108 に対して当接面 105 d が片側からのみ当接している場合には、反力によって当接面 105 d が傾く力が生じるためである。本実施形態のように固定部材 108 に対して当接面 105 d を両側から当接させると、傾く力がキャンセルされるため、より安定して引き回すことが可能となる。

【0038】

好ましくは、分岐部 105 e は、光軸 OA と平行であってかつ固定部材 108 の中心を通る線 L1 に関して略線対称である。すなわち、図 4 において、上側分岐部 105 e1 の上端から線 L1 までの距離 D1 と、下側分岐部 105 e2 の下端から線 L1 までの距離 D2 との距離が略等しい。ここで、略線対称（略等しい）とは、実質的に線対称である（等しい）と評価できる場合を含み、例えば $0.8 \leq D2 / D1 \leq 1.2$ を満たす範囲をいう。

【0039】

また好ましくは、ガイド部材 107 の形状を、固定部材 108 を中心として光軸に関して略線対称とする。これにより、フレキシブルプリント基板 105 の引き回しを更に安定させることが可能である。図 4 を見てわかるように、フレキシブルプリント基板 105 の分岐部 105 e の分岐端部 105 f と固定部材 108 の軸部 108 b とが当接することにより、フレキシブルプリント基板 105 の光軸方向の位置決めがなされる。このような構成により、フレキシブルプリント基板 105 を安定して位置決めすることができる。

【0040】

前述のように、本実施形態において、フレキシブルプリント基板 105 とガイド面 107 c は、接着手段により接着されて位置が決定される。本実施形態において、分岐端部 105 f は R 形状、軸部 108 b は円筒形状である。このため固定部材 108 を貼り付ける際、フレキシブルプリント基板 105 を、軸部 108 b を中心として回転させることができ、フレキシブルプリント基板 105 の引き回しを真っすぐにした状態で接着することができる。

【0041】

また本実施形態において、分岐部 105 e の中央部から分岐端部 105 f までの間に分岐部 105 e の開口部 105 j の幅よりも狭くかつ分岐端部 105 f よりも大きい幅の幅狭部（端部）105 g を設けている。これにより、組み込み時に固定部材 108 の軸部 108 b と分岐端部 105 f とが当接する前にガイド面 107 c に平行かつ光軸に垂直な方向の位置決めが行われるため、組立性が向上する。

【0042】

好ましくは、本実施形態において、固定部材 108 の受け面 108 a に対応する位置において、当接するフレキシブルプリント基板 105 の当接部 105 d に補強部 105 h が設けられている。補強部 105 h は、フレキシブルプリント基板 105 と一体的に設けられた補強板であるが、これに限定されるものではなく、フレキシブルプリント基板 105 とは別の部品として設けられた補強部であってもよい。また、フレキシブルプリント基板 105 のパターンによって補強部を作ってもよい。このような構成により、フレキシブルプリント基板 105 の反力を直接受ける部分の補強を行うことができる。このため、フレキシブルプリント基板 105 の断線の防止や引き回しの安定化、安定した位置決めを行うことが可能となる。また補強部 105 h は、固定部材 108 とガイド部材 107 とで挟まれる形状を有する。これにより、フレキシブルプリント基板 105 を組み込んだ後、補強部 105 は、径方向において固定部材 108 の受け面 108 a で規制され、ガイド面 107 c に平行な軸方向（光軸方向）において固定部材 108 とガイド部材 107 とで位置が決定される。

【0043】

本実施形態において、補強部 105 h の位置は固定部材 108 とガイド部材 107 とで決定されるが、固定部材 108 とガイド部材 107 とで補強部 105 h をガタなく挟む必要はない。この間にクリアランスを設けた場合であっても、フレキシブルプリント基板 105 が固定部材 108 から外れてしまうことを防止することができ、信頼性高くフレキシブルプリント基板 105 を引き回すことが可能である。

【0044】

また本実施形態において、フレキシブルプリント基板 105 の一部とガイド面 107 c は接着手段により接着され位置が決定されるが、これに限定されるものではない。例えば、フレキシブルプリント基板 105 の外形を点線部 105 i のような、より安定して位置決めできる形状とすることにより、接着なしで保持させることが可能である。

【0045】

本実施形態において、固定部材 108 の受け面 108 a とガイド部材 107 のガイド面 107 c とは互いに平行であり、かつ重なっていない。好ましくは、ガイド面 107 c に垂直な軸方向（径方向）において、受け面 108 a とガイド面 107 c との間の距離 D は、フレキシブルプリント基板 105 の厚み T_1 以下である。例えば、 $0.9 \leq D / T_1 \leq 1.1$ を満たすことが好ましい。なお本実施形態では、ガイド面 107 c の向き（上向き）は受け面 108 a の向き（下向き）と反対であるが、ガイド面 107 c の向きを受け面 108 a と同様に下向きにすることもできる。この場合、例えば、 $0 \leq D / T_1 \leq 0.5$ を満たすことが好ましい。また本実施形態において、補強板 105 h を有する場合、補強板 105 h の厚み T_2 を考慮する。この場合、ガイド面 107 c の向きが上向きである場合、 $0.9 \leq D / (T_1 + T_2) \leq 1.1$ を満たすことが好ましい。また、ガイド面 107 c の向きが下向きである場合、 $0 \leq D / (T_1 + T_2) \leq 0.5$ を満たすことが好ましい。以下、この効果について説明する。

【0046】

前述のように、フレキシブルプリント基板 105 は、屈曲部 105 c の反力 F によって、固定部材 108 の受け面 108 a に当接部 105 d で当接する。すなわち、受け面 108 a に当接することにより、浮こうとする力が矯正され、フレキシブルプリント基板 105 を引き回すことが可能な状態になる。また、ガイド面 107 c の高さを受け面 108 a と高さを合わせることで、フレキシブルプリント基板 105 を安定的に引き回すことが可能となる。本実施形態において、受け面 108 a とガイド面 107 c のそれぞれとフ

レキシブルプリント基板 105 とが接触する面が反対である。このため、受け面 108a とガイド面 107c との間の距離をフレキシブルプリント基板 105 の厚みと略同じとすることにより、安定的に引き回すことが可能となる。受け面 108a とガイド面 107c のそれぞれとフレキシブルプリント基板 105 とが接触する面が同一である場合、高さを合わせることが好ましい。

【0047】

[第 2 の実施形態]

次に、図 5 乃至図 7 を参照して、本発明の第 2 の実施形態について説明する。図 5 は、本実施形態における撮像装置 100a の断面図である。図 6 は、本実施形態におけるレンズ鏡筒 2a の要部拡大図である。図 7 は、レンズ鏡筒 2a の部分斜視図である。

10

【0048】

本実施形態の撮像装置 100a は、フレキシブルプリント基板 205 にフォーカス時に保持鏡筒 24 と制御基板 109 との相対的な移動に伴い位置が変化する第 2 の屈曲部 205j が設けられている点で、第 1 の実施形態の撮像装置 100 と異なる。第 2 の屈曲部 205j は、フォーカス時に光軸方向の位置が変化し、その位置がガイド部材 207 のガイド面 207c でガイドされる。本実施形態において、第 2 の屈曲部 205j が移動する範囲外の制御基板 109 側を保持板 45 で固定し、絞りユニット 106 側は固定部品 108 とガイド部材 207 で位置決めされている。なお本実施形態の他の構成は、第 1 の実施形態と同じであるため、それらの説明を省略する。

【0049】

20

本実施形態では、フレキシブルプリント基板 205 が絞りユニット 106 の駆動部 106a との接続部 205a から屈曲部（第 1 の屈曲部）205c、固定部材 108 と反力で接触する当接部 205d までの引き回しは同じである。一方、本実施形態のフレキシブルプリント基板 205 は、ガイド部材 207 に引き回されてからフォーカスで位置が変化する第 2 の屈曲部 205j を有するため、第 1 の実施形態の構成よりも安定してフレキシブルプリント基板 205 を引き回す必要がある。これは、引き回しの途中でフレキシブルプリント基板 205 の反力により位置決めが安定しないと引き回しが正確でなくなり、第 2 の屈曲部 205j が周辺の部品と干渉する可能性があるためである。また、反力によりフレキシブルプリント基板 205 を固定している箇所が剥がれると、第 2 の屈曲部 205j がフォーカスで想定通りに移動しない場合があり、耐久性に影響を与える場合がある。

30

【0050】

本実施形態において、固定部材 108 でフレキシブルプリント基板 205 の反力を受けように構成したため、浮きを抑制することができる。また、ガイド部材 207 を固定する固定部材 108 に浮き防止の機能を持たせたことにより、省スペースで安定的にフレキシブルプリント基板の引き回しをすることが可能となる。なお本実施形態において、第 2 の屈曲部 205j はフォーカスで相対的に移動するが、これに限定されるものではなくズーム等で移動してもよい。

【0051】

フォーカスやズームによって第 2 の屈曲部 205j の位置が移動する場合、第 2 の屈曲部 205j が安定的に維持するため、第 2 の屈曲部 205j が移動する範囲にはガイド面 207c を設け、かつ屈曲する範囲外をガイド面 207c に固定することが好ましい。フォーカスやズームでの相対的な移動量が大きい場合、屈曲部の移動範囲も大きくなるため、ガイド面 207c を移動方向に広げる必要があり、屈曲する範囲外をガイド面 207c に固定する範囲を小さくするほど小型化に有利である。本実施形態の方法によれば、ガイド面よりも外でフレキシブルプリント基板と固定することができるため、小型化に有利な方法である。

40

【0052】

各実施形態によれば、省スペースで安定的にフレキシブルプリント基板の引き回しが可能なレンズ鏡筒および撮像装置を提供することができる。

【0053】

50

以上、本発明の好ましい実施形態について説明したが、本発明はこれらの実施形態に限定されず、その要旨の範囲内で種々の変形及び変更が可能である。

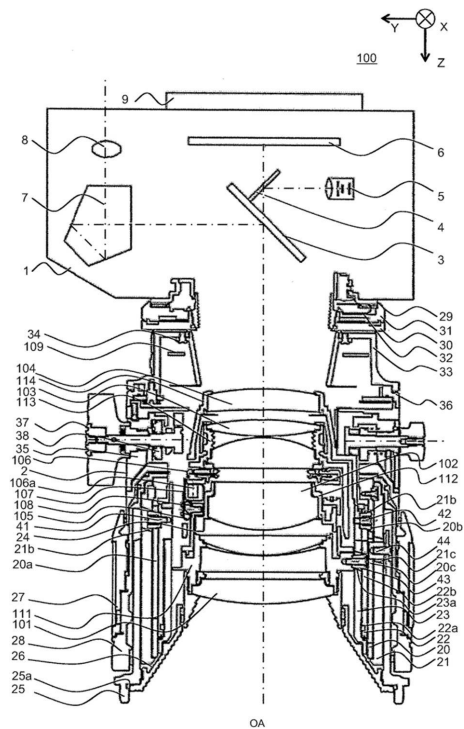
【符号の説明】

【 0 0 5 4 】

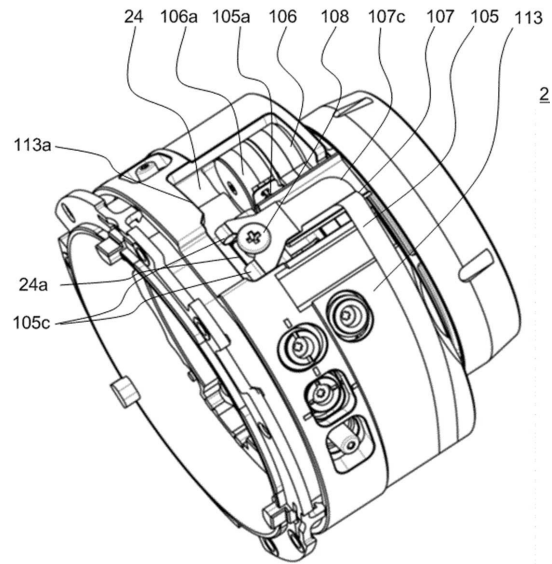
- 2 4 保持鏡筒
- 1 0 5 フレキシブルプリント基板
- 1 0 5 c 屈曲部（第 1 の屈曲部）
- 1 0 6 絞りユニット（電気部品）
- 1 0 7 ガイド部材（保持部材）
- 1 0 7 c ガイド面
- 1 0 8 固定部材
- 1 0 8 a 受け面
- 1 0 9 制御基板

10

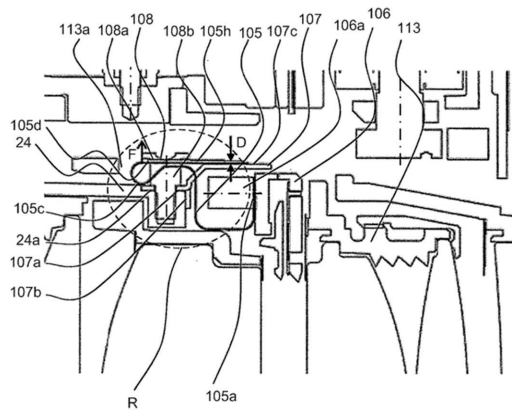
【 図 1 】



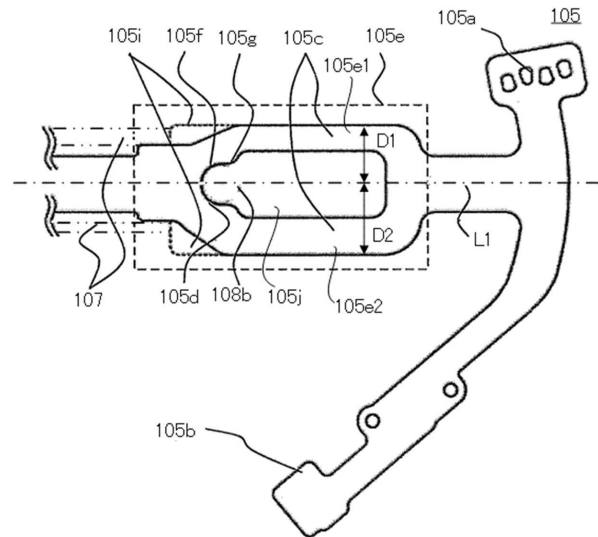
【 図 2 】



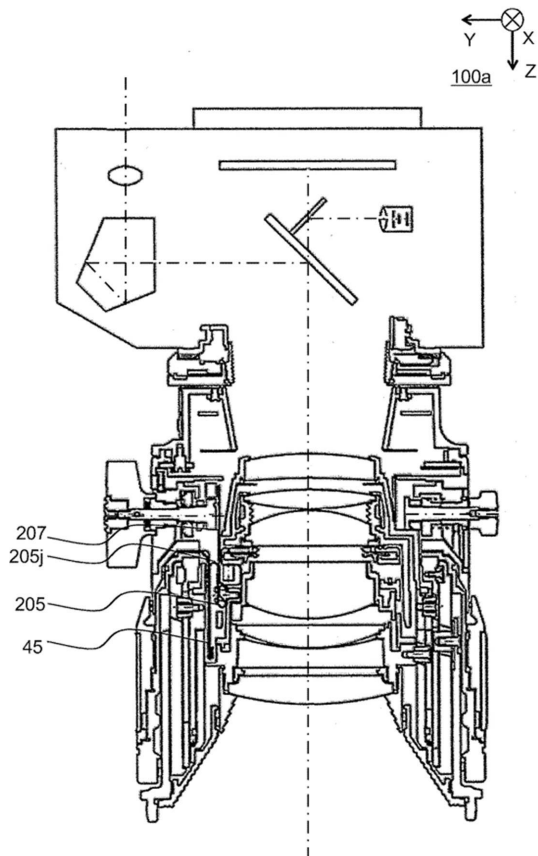
【図 3】



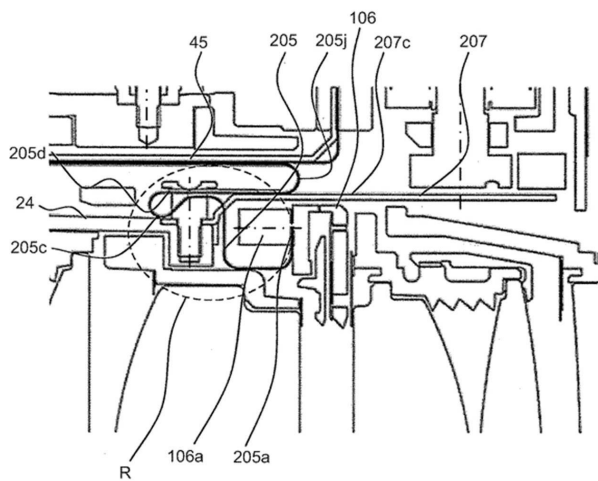
【図 4】



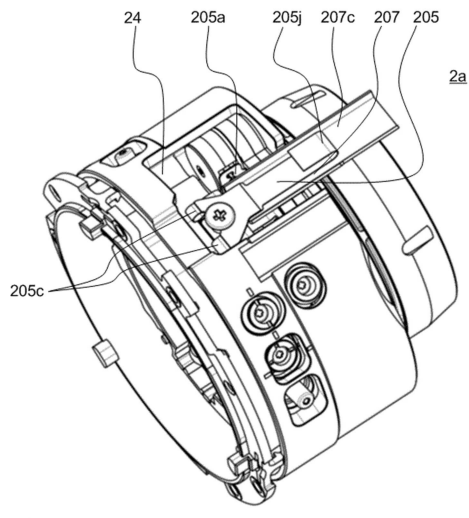
【図 5】



【図 6】



【図 7】



フロントページの続き

(56)参考文献 特開 2 0 1 1 - 1 5 8 7 2 5 (J P , A)
特開平 0 5 - 1 3 4 1 6 1 (J P , A)
特開 2 0 1 6 - 2 1 8 2 4 6 (J P , A)

(58)調査した分野(Int.Cl. , D B 名)

G 0 2 B	7 / 0 2	-	7 / 1 6
G 0 3 B	5 / 0 0	-	5 / 0 8
G 0 3 B	1 7 / 0 2		
H 0 4 N	5 / 2 2 2	-	5 / 2 5 7